

全 教

実教部NEWS

第 132 号

2023/8/10 発行

## ◎全教実習教員部 オンライン交流会 開催報告

7月1日(土)16時からオンライン交流会を開催しました。「子育てと仕事の両立で参加できない」「昼間は部活動で忙しい」「全国の先生と交流したい」といった要望を受けて、昨年度、初めてオンラインでの学習交流会を開催しました。今年度は各組織の実習教員をはじめ、全教青年部の協力により小・中・高・特別支援学校の教職員や大学院生にも呼びかけ、総勢46名の仲間が集まりました。

はじめに実習教員部・魚住部長から「今回の企画は、実習教員部が主催ですが、職種に関係なく多くの先生が参加できる形で開催しています。学校ではみんな『先生』として日夜奮闘していますが、その置かれた環境は全国各地で様々となっているのが現状で、実習教員も含めて教職員の勤務実態については学校裁量や適材適所といった矛盾した教育環境、あるいは不条理な制度の中で働いている仲間がたくさんいます。この交流会ではそういった『おかしいな、変だな』と思うことが言え、共有できる仲間とともに、『職種や全教専門部枠にとらわれない横のつながり』『先輩後輩関係なく語れる場』として開催しています」と、職場づくり・仲間づくりを意識したあいさつがありました。続いて全教中央執行委員・高木さんより「日頃、『おかしいな、変だな』と思っていることを、ぜひまわりと共有して、あるべき姿へと改善していくエネルギーを、組合を通じて、横とのつながりでチャージしていただきたい」と力強い激励がありました。

メインテーマ「教えてよ！ミコがヘンだよ ウチの学校！！」として、8つのグループに分かれて、活発な意見が交わされました。

## ・グループA・

簡単な自己紹介をおこない各自の学校の課題や組織の課題の他、実教部としての課題を話し合いました。「補習と部活動の時間が被っていて指導が忙しすぎる」、「教員が足りていない。安い賃金で雇うことのできるスクールサポーターが配置されるようになった。雑務を任されていて第二の実習教員にならないか心配」、「部活動の問題」、「実習教員の引率について」、「『実習助手』という差別的な名称について」などまだまだ書ききれないほど多岐に渡り、話を深めることができました。特に「実習教員の引率問題」について、時間を割いて議論が深まり、宮城県では「実習教員の単独引率ができる」のに対し、全国的に見ると、「部活動の指導員は単独引率ができるのに、実習教員の単独引率はできない」ところもあり、実習教員の権利拡充、差別解消のために運動が必要だと思いました。また、今回参加された宮城高教組の執行委員長から実習教員部運動の歴史が語られ、とても盛り上がり、みんなで語り合っているうちに、グループ交流の1時間はあっという間に過ぎてしまいました。とても充実したグループディスカッションの時間となりました。



## ・グループB・

「2級格付け」の条件や呼称が各府県で異なることが話題になりました。「部活動は業務なのか？」という疑問も呈され、部活動の負担軽減をするためには、「8-17時勤務」「11-19時勤務」のシフト制にしたら良いのではないかという意見も出ました。いろんな仕事が増えていく中で、若手に仕事が集中していたりする現状があり、若手の実習教員は命じられた仕事に対して特に断りにくいという報告もありました。

また、実習教員の採用が増加しているが、工業関係で採用されたのち、特別支援学校に勤務となり、工業高校へ戻してもらえないのか不安を抱えている人が多くいることや、採用試験の問題が専門に特化したものではなく、複合的なものになっており、県教委の「何でも屋を採用したい」という思惑が感じられるという話も出されました。

### ・グループC・

若い教員の残業時間が多いという話題から、PTA 係を担当すると「会議が夕方から夜になるので残業になるよね」という話になりました。東京の教員からは『あだちからの日』というのが月に一日設定されており、その日が授業のみで会議は一切入れないというとりくみ」が報告されました。その他、「教員が足らずに、教科外のことを教えている教員がいる」という話もありました。

実習教員については、参加者に高校時代を振り返っていただくところから始め、高校に勤務されている方には、現在勤務校や前任校で出会った実習教員の印象を聞きました。「主に校務分掌と一緒に仕事をした」「テストの時期はテストの作成や採点がないのでずいぶん助けてもらった」しかし、「何をお願いしたら良いかわからない」という話がありました。なるほどということで実習教員から、普段どのような仕事をされているか紹介してもらい、その中である実習教員が話された「教員が少ないから頼まれたらなんでもやらざるを得ない。専門外のこともやらされるし、次に何をやらされるかわからない」という意見に皆が納得しました。

### ・グループD・

「実習教員の仕事の線引きが難しい」という話題から交流が始まりました。「学級減にともない教職員数も減り、副担業務を担うことになりましたが、総探の授業を担当と副担とでやらなければならず、単独での授業をやるかどうかで問題になりました」「実習でグループを受け持つが、成績を実習教員がつけるかどうかで問題になりました」「学校によって実習教員の扱い方が変わっていて、いわゆる『何でも屋さん』のような扱いになっています」「全国的な流れで ICT 機器が導入されましたが、その整備や設定は専門外であるにも関わらず、実習教員がやらされている所も多くあります」「そもそも管理職が、実習教員にどこまで仕事を任せられるかがわかっていないこともあります」というような話が参加者からありました。このような現状に対して、やはり「おかしい」と言わなければ学校も変わっていかず、声を挙げることの重要性を確認し、交流が締めくくられました。

### ・グループG・

統廃合によって普通科と職業科がひとつの高校になったものの、出張旅費や施設設備の改善において普通科志向が強く、校舎間での隔たりがあります。

特別支援学校で実習教員として農業関係の仕事をしていますが、農場長は芸術の免許を持った教員が担当しているため、専門性が生かされていません。統廃合問題で完成年度が間近に迫っているにも関わらず、施設設備が整っていません。人事異動に関して、理科の教諭定数 3 名に対して、全員が再任用の教諭となりました。

このグループはサテライト会場だったので、同じ県内の人が集まったこともあり、ご当地トークで盛り上がり、司会者の意に沿って「ここが変だよ」の連呼でした。

### ・グループE・

同一勤務校 10 年が 7 年に短縮され、または採用 10 年未満で 3 校異動をしなければならない、5 年が異動基準など、各府県の人事異動のルールについて意見が交わされました。また偏った配置や専門の教員が不足している現状が浮き彫りになりました。

実習教員の働き方が府県ごとに異なることや特別支援勤務があったりするため、制度上は知っているけども、実習教員の実際の働き方を知らなかったり、接したことがないという声もあり、それだけに、それぞれの教員がお互いを知っていくことがすごく大事だと感じました。臨時的任用の教員との連携や支援学校の教員の事を知っていくことなど若手の教員にもそういった話を今後もっと広げていきたいと思いました。

### ・グループF・

実習教員以外に中学校音楽科教員が参加されているので、実習教員の職務や制度の成り立ちから話をすすめていきました。府県ごとに違う採用条件、職務の内容や置かれている立場の問題など、各府県の教員に話していただき交流しました。

京都の中学では理科の教員が実験の準備に苦勞されている状況や、クラブ活動の状況などについて話がありました。また、京都の中学で理科の準備などに配置された職員がいたことも報告がありました。

各府県の教員から実習教員の職務内容の違いや勤務実態について説明があり、理科以外の教科の兼務をさせられた、クラブ引率が単独で出来なかったことなどが話題になりました。また、これまでの組合での活動についても報告されました。

実習教員について「高校には実習教員という先生がいるんだ」ということ、また「いろいろな問題があること」も理解していただき、「今日、交流ができて良かったと思います」と感想をいただきました。最後に、実習教員 3 名がそれぞれの思いについて語り、交流を終了しました。



・グループH・

「実習教員の本来の業務、生徒との関わりはどのようにおこなっていますか」との質問に対し、参加者から「以前、実習教員は職員会議に出られなかったが、今では参加できる」「副担任は実習教員が入ることもある」「校務分掌も教諭と同様に分担し、また地域交流も担当している」と説明がありました。また、実習教員には良くしてもらっていることや、あるベテラン実習教員のわがままにより翻弄されてしまった事例などが話題になりました。総括として、本当にわかってほしいことが教諭に伝わりにくいなどの悩みが浮き彫りになりました。

私たち実習教員は、長年にわたり同一勤務校に在職する場合が多く、知識や経験、学校の事情や地域との関わり方など、良くわかっている部分があると思います。謙虚に教諭とウィンウィンの関係でお互いを信頼しあい勤務していかなければいけないと思った話し合いとなりました。

参加者からの《感想》も一部ご紹介します。



全てに共通して「教員が足りないがために、都合良く欠員補助に当てられてしまうことがある」「残業が多い。しかし手当も付かないことがある」という問題点があることがわかりました。

教員不足によるしわ寄せは教諭だけでなく実習教員、生徒にも関わってくるので定数の改善が必要だと感じました。



実習教員だけでなく教諭の方々などとも交流ができて刺激になった。  
実習教員の仕事のあいまいさがもたらしている問題について意見交換ができた。

実習教員部だけで完結してしまうと、勿体ないと思いました。各校種でこういった方が実習教員なのか、他の専門部と連携してとりくめることはないかなどが分かると嬉しいです。



短い時間での交流でしたが、小学校・中学校・高校・特別支援学校と異なる学校種、教諭・実習教員という異なる職種の間を乗り越えて、日頃の悩みや学校の「ヘンだよ」が共有できました。私たち実習教員の普段の仕事内容を知ってもらえ、実り多き学習会でありました。



# やっぱeね! in 和歌山

まずは、みんなが集いあい、交流し学び合いましょう 『つれもていこら』

## ◆第31回全教実習教員部全国学習交流集会◆

昨年は感染対策を徹底しながら、岡山市・備前市にて参集型の集会を開催することができました。「集いあい、語りあい、学びあう」ことのうれしさを実感する集会でした。

今年は和歌山県にて開催します。e5 enjoyでは「めでたいでんしゃ」に乗ってフィールドワークも計画しています。14日(土)は夕食交流会も開催します。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

期日 2023年10月14日(土)～15日(日)

場所 和歌山県和歌山市 『和歌山県民文化会館』

- ① 「集いあい・語りあい・学びあう」をテーマに、全国の仲間とつながりましょう
- ② 子どもたちにとっての「ゆきとどいた実験・実習教育の充実」を考えてみましょう
- ③ 青年教職員の成長につながるサポートをしましょう
- ④ 学校現場での私たちのとりくみについて情報交換をしましょう
- ⑤ 実習教員部運動について学んでみましょう

分科会

- ・e1 ecology「普通教育(理科・家庭科など)と実験・実習教育」
- ・e2 education「職業教育(専門科教育)と実験・実習教育」
- ・e3 especially「障害児教育と実験・実習教育」
- ・e4 essential「教科外教育、実教部運動」
- ・e5 enjoy「つれもていこら青年教職員！」

フィールドワーク

多くの申込みありがとうございました。

まだ、申し込んでいない組織はお早目に!

